

私は大学院までを札幌で過ごし、わずかですが積丹町での公務員経験を経て、現在の会社に入社しました。発注者から受注者の立場に入れ替わったわけですが、今思うに、若干でも行政的な考え方を学べたことが、現職にとっても役立っていると感じます。ちなみに今の職場では、道内自治体を主な顧客として、公共施設や住宅・建築分野の計画策定業務をメインに携わっています。

そんな私の専門分野は建築であり、「技術士」という資格は学生時代には聞いたことがなく、今の会社で初めて聞いたに近い状態でした(父親も技術士なのですが、それまで知らなかったくらい)。技術士とは縁遠い環境で育ちましたが、今の会社で巡り合った上司がとても魅力的で、「自分も技術士になりたい!」と思うことができ、たくさんの先輩方にアドバイスをいただけたことで、建設部門と総合技術監理部門を取得することができました。

「技術士は取得してからがスタート!」とたくさんの方から聞いたとおり、私はまだ30代半ばで、技術者としてはやっと中堅に片足を突っ込み始めたタイミングです。専門知識などの技術的な要素はもちろんのこと、マネジメントやリーダーシップなど、技術士に求められる“人間力”の高い技術者になることができるように、最大限楽しみながら研鑽を続けていきたいと考えています。

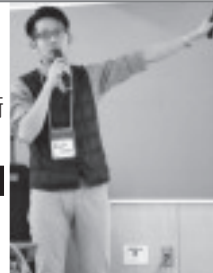
また、私は技術士であるとともに、2児のパパでもあります(こちらはまだまだ新米)。育児といいながら子ども由来の気づきも多く、自分が育てられていると感じることが多々あります。そんな家族との時間を大切にしながら、子どもにも技術士の魅力を伝えられるように、邁進していきたいと思います。

藤井 貴弥(ふじい たかや)

●建設部門(都市及び地方計画)、総合技術監理部門(建設-都市及び地方計画)

勤務先

日本データサービス株式会社



→次号は、永井登茂美さん(建設部門)

私は平成27年度の試験に合格し、情報工学部門(コンピュータ工学)の技術士となりました。コンピュータ工学はハードウェア、ソフトウェアからその応用まで幅広い知識が必要で、日頃から新たな知識を少しずつ獲得するように心がけ、なんとか合格することができました。

現在は北海道立総合研究機構(道総研)工業試験場に勤務しています。担当はICTの試験研究および技術支援です。当初はマイコン等を使って機器を制御する組み込みシステム関連の研究および技術開発を担当しました。その後、通信技術、分散処理技術、セキュリティ技術など技術分野が広がりました。

近年、マイコン等の性能が著しく向上しており、機械学習等の高度な情報処理も行えるようになってきました。それに伴って技術の適用範囲も広がり生産用機器の制御等のみならず、農作業機械の省力化・高度化など多方面に情報技術と通信技術を駆使して対応しています。最近では、温室の制御システムの設計、農作業を省力化するロボット技術、農産物の検査技術等の業務に関わっています。

私は工業試験場の研究成果や知見を地場の製造業やソフトウェア産業を通して、北海道の発展につなげていきたいと考えています。道総研は北海道庁が管轄していた工業試験場や農業試験場などの22の試験研究機関で構成された地方独立行政法人で、北海道に貢献できる多様な技術分野をカバーしています。そのため、工業試験場単独では困難な案件にも対応できる可能性があります。今回、このような技術を紹介する機会をいただきありがたく思います。今後ともよろしくお願いします。

堤 大祐(つつみ だいすけ)

●情報工学部門(コンピュータ工学)

勤務先

地方独立行政法人北海道立総合研究機構工業試験場



→次号は、石井 旭さん(建設部門)